

校注驚鴻記(四)

呉, 世美

竹村, 則行

<https://doi.org/10.15017/2559301>

出版情報 : 文學研究. 93, pp.27-49, 1996-03-25. 九州大学文学部
バージョン :
権利関係 :

校注驚鴻記(四)

(明) 吳世美 著
(日) 竹村則行 校注

はじめに

一 楊貴妃故事を集成させた清・洪昇の名曲『長生殿』の構想や表現に大きな影響を与えたと思われる明・呉世美の『驚鴻記』に就いては、これまで僅かに『古本戯曲叢刊』二集に影印資料が公表されたのみで、正面から研究の眼が向けられた事は無かった。本稿では、研究の基礎資料を提供する為に、その翻刻を試みることにする。

二 本稿は、前稿「校注驚鴻記(一)(二)(三)」(九州大学文学部『文学研究』第九十・九一・九二輯、平成五〇七年)に続いて、明・呉世美『驚鴻記』中の第六齣「壽邸恩情」、第十四齣「梨園演樂」、第十七齣「洗兒賜錢」、第十八齣「花萼霓裳」、第二十二齣「祿山辭朝」、第三十齣「諸臣追駕」、第三十一齣「蜀道思妃」、第三十三齣「大駕還宮」、第三十五齣「馬嵬移葬」、第三十七齣「香囊起悼」、第三十八齣「仙客蜀來」の各齣について校合し、簡単な注を施したものである。その他の齣の校注については、続刊を俟ちたい。

三 底本は明・萬曆十八年序刊『新刻驚鴻記』(神田喜一郎博士舊蔵、大谷大学蔵。新刻本と略称する。)を用い、明・世徳堂刊『新鍔重訂出像附釋標註驚鴻記題評』(北京大学蔵『古本戯曲叢刊』二集影印。標注本と略称する。)と併せて校合する。また、明・胡文煥『群音類選』(中華書局、一九八〇年影印刊)所収の『驚鴻記』も参照した。

四 標註本には、陳氏尺蠖齋(不詳)の手になる頭註を附載するが、本校注では「陳氏標註」として努めて採録した。

五 底本に散見する俗字や異体字、また特有のくずし字は、原則として旧字体の正字に復する。但し、来・觀・従・為・即など、

底本のままを襲ったものもある。

六 神田喜一郎博士舊蔵本（新刻本）、『古本戯曲叢刊』二集所収本（標註本）の閲覽・複写にあたって、大谷大学図書館、京都大学人文科学研究所の御協力を得た。記して感謝する。

七 底本（新刻本）の刊行以来約四〇〇年、『鶯鴻記』の校注翻刻を試みるものは、本稿以前には聞かない。難字・句点・注釈等、校注者の浅学に因る幾多の粗漏を免れ得ないであろうが、諸賢の御指正を賜りたい。

第六齣 壽邸恩情

〔七娘子〕（貼穿道姑服、扮楊妃上唱）頻年華閣蒙恩寵。掃雙蛾。隊裏誰工。秀色瓊花。啼粧露草。慙慙拚入襄王夢。

妾身姓楊、字玉環、弘農華陰人也。父名玄琰、忝為蜀州司戶、不幸早世、自小養于叔父玄瓊之家。開元二十二年十一月、嫁與壽邸、蒙壽王殿下教妾歌舞、精通音律。壽王愛禪、妾亦道粧、雅素以娛其意。以此情思契合、恩慕非常。偶間又聞東

廊有咲語聲、多是殿下起來也。（小末扮壽王上）

〔步蟾宮〕（小末唱）晚來輾轉如花擁。不禁倦。起玩房櫳。呀、妃子你先起來了。（貼同唱）歲月相依恩愛重。儘消得春風斷送。

（小末）寡人得汝之後、情諧雲雨、韻合瓊筵、又已不覺五年了。（貼）正是世事短如春夢、恩情濃似秋霜、好感慨人也。

〔錦纏道〕（貼唱）思昔日在粧樓。紅塵偶逢。驚懼事忽忽。待年來。蒙君顧盼。情濃。（小末與貼同唱）好一侶雙棲鳥。

比目魚。並蒂芙蓉。斷不如漢長門掩泣秋風。心意照晴空。幾迴間怕迷魂夢。薰爐共綉襦。又提起鸞簫欲弄。但吾生此後莫飄逢。

（小末）寶鈿香娥翡翠袖

粧成搵淚欲行雲

(貼) 須知錦幙宮前侶

是昔瑤臺月下群

註

(1)「道姑服」、標註本は「道衣服」に作る。(2)標註本は「唱」字を欠く。(3)「啼粧」、陳氏標註に「啼粧、開元時、宮中多以粉飾兩頰號啼粧」と。白居易「新樂府一時世妝」に「妝成盡似含悲啼」とある。(4)「襄王夢」、陳氏標註に「襄王夢、神女賦、楚襄王與宋玉游于雲夢之浦、使玉賦高唐之夢。其夜王寢、夢與神女遇。其狀甚麗」と。『文選』卷十九所収、宋玉「高唐賦」参照。(5)「妾身姓楊」嫁與壽邸」。宋・樂史『太真外傳』卷上に「楊貴妃小字玉環、弘農華陰人也。……父玄琰、蜀州司戶。妃早孤、養於叔父河南府士曹玄珪家。開元二十二年十一月、歸於壽邸。」とある。なお、ここに述べる「歸於壽邸」に就いて、『驚鴻記』では「嫁與壽邸」と言い代え、楊玉環が壽王妃となったとしているが、「歸於壽邸」とは、楊玉環がなお宮女として壽王邸所屬となった、との解釈も可能である。因に言えば、続く「教妾歌舞、精通音律」とは正しく宮女の技能を表現したものである。(6)「愛禪」、標註本は、本文は「受禪」に作るが、眉註は「愛禪」に作る。陳氏標註に「壽王愛禪、妃子便度為尼、固其迎合逢媚、在壽邸已然」と。なお、壽王が特に禪を好んだ記事は他に見えず、作者吳世美の創作であろうと思われる。(7)標註本は「小末唱」の三字を欠く。(8)「瓊篔」。土製と竹製の古代楽器。兄弟仲の良さに喩える。『詩經』大雅、板に「天之牖民、如璫如篔」と。ここでは、玄宗帝を戴く臣民としての壽王と壽王妃の仲の良さに喩えたものと考ええる。(9)「世事短如春夢、恩情濃似秋霜」。『西湖二集』卷一「吳越王再世索江山」に「世事短如春夢、人情薄似秋霜」とある。(10)標註本は「唱」字を欠く。(11)「年来」、標註本は「来年」に作る。(12)「貼」、新刻本(底本)は「旦」に誤る。(13)「比目魚」、陳氏標註に「比目、東海有比目之魚、不比不行。爾雅」と。『爾雅』積地に「東方有比目魚焉。不比不行、其名謂之鱮」とある。

第十四齣 梨園演樂

〔天下樂〕(小丑扮高力士上唱) 簫鼓宸遊倍喜欣。看萬井望清塵。¹ 龍顏鳳姿吾日近。鈞天奏。² 逐雨驅雲。

自家高力士是也。聖上與娘娘，明早要在東興慶池玩牡丹，命俺家掌管梨園弟子三百人，承應鼓吹。今日試呼他們上堂分付，演習一番。左右的，快喚那衆樂工上來。（末扮一軍校上跪了）是，理會得。（下）公公爺有命。衆樂工一齊上來。（丑·小外·小末·小淨扮樂工上。同唱）

〔柳絮飛〕聖旨限著明日。明日。齊要和好音律。音律。若是生疎非小也。管取他分開首級。首級。與你見公公。大家的。去演習。

（同跪了）衆樂工叩見公公爺。（小丑）你們是樂工的頭兒麼。（衆應了）是。（小丑）你們做幾班演習？（衆應了）樂有五音、樂工有五班。（小丑）如今怎麼少了一班？（丑）打鼓的還未來。（小丑）却怎麼未來？（丑）方裁去殺牛。（小丑）敢是殺牛、

獻與俺公公爺麼？這個也不消。（丑）不是獻與公公爺，要拿牛皮來擗鼓。（小丑）走，胡說。你們衆樂工在此，聽我分付、

明日奏樂，大家都要用心。奏得好，萬歲爺娘娘有賞。（衆應了）理會得。（小丑）你們樂工頭兒，且都把自家的本等伎藝報上

來。（小末）小的是馬仙期，方響最妙。（小外）小的是張野狐，箏篋絕佳。（小淨）小的是李龜年，精於鬻角。近寺不重僧，江

南也擅一個微名。（丑）小的是賀懷智，長於手拍。師曠是我的徒弟，伶倫是我的徒弟。（小丑）口說無憑，耳聽便見。（唱）

〔前腔〕你們要盡心力。心力。神遇天隨趙壁。趙壁。鳳點龍調雙鶴舞。至尊前。自能賞識。賞識。好芋而鼓瑟。不用他。又將出。

（小丑）敬樓對三道

吹臺臨九重

（衆唱）鼓飛雲上鶴

笛奏水中龍

(1)「清塵」、陳氏標註に「盧諶、贈劉琨詩序、自奉清塵」と。「文選」卷二十五、盧子諒「贈劉琨并書」参照。(2)「鈞天奏」、陳氏標註に「史記、秦穆公夢至帝所聞、奏鈞天廣樂」と。「史記」卷四十三、趙世家に「我之帝所甚樂、與百神游於鈞天、廣樂九奏萬舞、不類三代之樂とある。(3)標註本は「家」字を欠く。(4)「弟子」、標註本は「子弟」に誤る。(5)「了」、標註本は「云」に作る。(6)標註本は「下」字を欠く。(7)「了」、標註本は「云」に作る。(8)標註本は「應了」二字を欠く。(9)標註本は「應了」二字を欠く。(10)「裁」、標註本は「纒」に作る。(11)新刻本(底本)は「牛皮」二字を欠く。標註本によって補う。(12)標註本は「了」字を欠く。(13)以下、馬仙期・張野狐・李龜年・賀懷智について、陳氏標註に「此事見楊妃外傳」と。「太真外傳」卷上に「就按於清元小殿。寧王吹玉笛、上羯鼓、妃琵琶、馬仙期方響、李龜年箏篋、張野狐箏篋、賀懷智拍板。」とある。(14)標註本は「唱」字を欠く。(15)「好芋而鼓瑟」、陳氏標註に「韓文。王好芋、而子鼓瑟。瑟雖工、如王之不好何」と。韓愈「答陳商書」に「王好芋、而子鼓瑟。雖工、如王不好何」とある。(16)「唱」、標註本は「云」に作る。

第十七齣 洗兒賜錢

(貼扮楊貴妃上) 昭陽殿上怯春衣、桃李陰陰柳絮飛。(淨扮安祿山上) 聖代即今多雨露、小臣醉向五雲迷。(末・丑扮二黃門上) 送君緩步歸青瑣、退食從容樂有餘。(貼對淨) 適纔聖上、因我洗祿山兒、賜以金錢。臣子之榮、至此極矣。兒、你務要學做好人、盡忠報國。(淨跪了) 孩兒受父皇母后育養之恩、此生愧無可報。(貼) 我與兒同向天地、祝延聖壽、拜謝皇恩。(淨・貼同跪拜了唱)「皂角兒」拜蒼冥。齊祝堯年。坐深宮。朝宗禹甸。亘春院。母子常歡。興慶池。君臣永眷。從今後。遇神丹。餐芝草。降青龍。諧玉女。馭地飛天。崑崙帝殿。西王母筵。九霞觴。水桃碧藕。群仙同宴。

(貼) 諸侍們、可奉聖上所賜金錢、送祿山兒歸院。(末・丑跪了) 領娘娘旨。(淨跪了) 今宵暫離膝下、明早又候宮前。(貼) 你進見不拘晝夜、我倚門相望懸懸。(下)(末・丑與淨同行唱)

〔前腔〕 出金門。春深五雲。步瑤階。香分千仞。遶林花。百轉鶯遙。送爐烟。三條柳近。誰似伊。近龍顏。陪鳳輦。

冠駕班。倡豹尾。⁽¹²⁾ 魚水君臣。家連紫禁。戚屬侯門。百年中。金錢寶炬。長安聲震。⁽¹³⁾

(小生扮李白作大醉狀上) 痛飲十萬觴，大唱三千套。俺李白今早在宋王府中，設七寶花障，聽寵姐之歌。其音繞樑，不覺大醉。(作嘔吐了)⁽¹⁴⁾ (淨對小生打諢) 這個所在，是你撒糞的麼？ (小生高叫) 你是何等樣人，轍來戲弄李爺。(淨) 是貴妃娘娘的養子安

節度使，目今賜洗兒錢，你問我怎的。(小生) 罷了罷了，天翻地覆了。一個閉月羞花的中朝母后，難道養你這個卷髮巨鼻的臭

達子出來！ 走，胡說。(淨) 這個人也奇，就破口罵人，待我也罵他一場。你那李白且過來。(小生) 你那安祿山且跪下。(淨作

笑) 到要安老爺跪他，走，李白，我有何得罪于你。(小生) 走，安祿山，你有何足齒于我。(淨) 不敢欺，我是天子的邊郊萬

里長城。(小生) 非自誇，我是當今的斗酒百篇才子。(淨) 我將一劍之利，收百戰功，能使幕南無王庭，匈奴失魂魄。(小生) 我

以五色之肝，操三寸管，能使筆落驚風雨，文成泣鬼神。(淨) 我是皇家貴戚，豈同小臣。(小生) 我是瑤島酒仙，偶謫塵世。(淨)

你青天白日，不要說鬼話。(小生) 你廝役軍人，休得犯長者。(淨) 你是江南無用的老腐儒。(小生) 你是塞北逃來的騷羯狗。(淨)

你做清平詞，謠諛貴妃，謬次黃扉之列。(小生) 你獻助情花，逢迎人主，宜加赤族之誅。(淨) 韓荆州薦書不上，你今朝還乞食

四方。(小生) 張守珪軍令若行，你往日已分屍兩段。(淨) 你這幾句歪詩兒。吃不得，穿不上，用不來。何須做物輕世。(小生)

你這一張大肚子，囊着酒，袋着飯，積着糞。豈堪玉帶金魚。(淨) 我氣我氣，我氣死也。(小生) 氣死了你這臭達子，倒除了中

華腥膻果氣。(又作嘔吐下)(末·丑自小生上場至下場，隨意打諢)

(末) 可怪書生氣識頑

(丑) 向人白眼世途難

(淨) 我無雲暫作池中物

你有眼何曾識泰山

(1)「今」、標註本は「見」に作る。(2)「聖上、因」三字、標註本は「一个内」(?)に作り、意味不明。(3)「錢」字、標註本では意味不明。(4)新刻本(底本)は「跪」字を欠く。標註本によって補う。(5)陳氏標註に「□□□□(四字不明)言風旨、自遠有詩人之忠厚」と。この標註が本文のどの部分の註か不詳。仮にここに標する。(6)「崑崙」、陳氏標註に「山海經、崑崙為上帝之下都」と。『山海經』西山經、海内西經等に見える。(7)「水桃碧藕」、陳氏標註に「說類、周穆王開宴、王母獻水桃・碧藕」と。『拾遺記』卷三、「周穆王」に「西王母乘翠鳳之輦而來、又進萬歲冰桃、千常碧藕」とある。(8)標註本は「末・丑跪了」領娘娘旨の八字を欠く。(9)「了」、標註本は「云」に作る。(10)陳氏標註に「富艷之極」とある。(11)陳氏標註に「上官儀曰、御史供奉亦墀下接武」龍「羽鶴鷺」と。後半六字不詳。上官儀の故事、出処不詳。また、本文のどの部分の注であるかも不明。仮にここに標する。(12)「豹尾」、陳氏標註に「揚雄傳注、大駕風車八十一乘、作三行、尚書御史乘之。最後一乘縣豹尾、豹尾以前皆省中」と。『漢書』卷八十七上、揚雄伝に引く「甘泉賦」に「在屬車間豹尾中」とある部分の服虔注。(13)「震」、標註本は「振」に作る。(14)「障」、標註本は「欄」に作る。(15)「了」、標註本は「科」に作る。(16)「了」、標註本は「云」に作る。(17)「筆落驚風雨、文成泣鬼神」、杜甫「寄李十二白二十韻」詩に「筆落驚風雨、詩成泣鬼神」と。(18)「謫」、新刻本(底本)は「摘」に誤る。標註本によって改める。(19)陳氏標註に「此亦作一笑」と。(20)「助情花」、『開元天寶遺事』「助情花」に「安祿山初承聖醜、因進助情花香百粒、大小如粳米而色紅」とある。

第十八齣 花萼霓裳

〔念奴嬌引〕(生扮唐明皇、貼扮楊貴妃、旦・小旦扮二宮女、小丑扮高力士上、生唱)一天秋霽。看金粟正繁。芙蓉初麗。(貼上唱)花萼樓頭殘月起。照見玉人千里。(丑・旦・小旦唱)宿酒方醒。晚粧纔罷。又把芳樽理。(外扮宋王、末扮申王、小生扮岐王、小淨扮漢王、淨扮安祿山、衆扮樂工上、同唱)千秋佳宴。承恩無忝棠棣。

〔鷓鴣天〕(生)枕簟樓臺正早秋、彩雲依水晚來收。(貼)溪邊菌萑元同蒂、水底鴛鴦自並頭。(旦・小旦・丑同唱)欵金綾、挂銀鉤、清朝何事不風流。(衆)要令萬歲千秋後、想到今宵花萼樓。(貼俯伏)賤妾叩見陛下。(生)妃子起來。(外末・小生・小淨

俯伏了³。臣成器、臣成義、臣範、臣業、蒙召赴宴。願吾皇萬歲。(生) 皇兄皇弟少禮。(淨俯伏了) 臣安祿山叩見母后、願母后萬歲萬萬歲。吾皇同之。(生) 祿山先拜妃子、何也？(淨) 臣本胡種、胡人先母而後父、故臣行胡禮。(外) 想胡禮如此、

祿山亦非浪言。(生笑) 賜卿無罪。(淨) 萬歲。(生) 今日八月五日、乃朕初降之辰、早已光祿寺安排筵席、宴百官于花萼樓下。朕與諸王、貴妃宴于樓上、不知完備未曾。(丑俯伏了) 稟爺、酒已完備多時。(貼與諸王淨各通酒科) 衆樂工鼓吹畢。(生)

衆樂工俱樓下伺候。(衆樂工下)

〔念奴嬌序〕(貼唱) 清輝萬里。正千秋節屆。君王會樂。飄遙。粉黛三千。觴滿引。何來一派仙韶。驪吟。玉樹清歌。瓊臺緩舞。樓頭喧處月初高。(合唱) 惟願取人間天上。常似今宵。

〔前腔〕(旦·小旦同唱) 祈禱。南山壽考。身常傍金屋銅臺。月夕花朝。金井轆轤。清映處。鴛鴦誤入平橋。窈窕。院宇沉沉。池亭悄悄。星毬銀燭爛紅綃。(合唱) 同前

〔前腔〕(外·末·小生·小淨唱) 秋早。梧葉初飛。芙蓉未老。恍疑身世入雲霄。天如鏡。盈盈秋水魂消。爭道。花萼恩深。樓頭宴罷。微微臣何以報瓊瑤。(合唱) 同前

〔前腔〕(淨唱) 傾倒。惜玉憐香。尋驪追咲。大唐天子任風騷。人稱是。三郎沉醉多嬌。寒峭。月落蝦鬚。風歸魚藻。萬年王母上水桃。(合唱) 同前

(生) 當此良夜、甚思霓裳羽衣。就宜承應的樂工上來。歌的歌、舞的舞、博一大醉、不知妃子意下如何？(貼) 賤妾當淺舞纖腰、陛下須連浮大白。(內樂工上鼓吹、貼作舞了、衆合唱)

〔古輪臺〕舞纖腰。金樽細倒。夜迢迢。霓裳一曲人年少。瑤池仙調。似啼鶯轉喬。清韻十分工巧。飛燕輕韶。神龍天矯。看爭誇今夜好良宵。玉山自倒。成就了鳳友鸞顛。蜂喧蝶鬧。流蘇帳底。倩誰知道。仙女會藍橋。陽臺峭。襄王歸

向楚山高。
(生對貼云) 妙歌妙舞、生受你、直得一大醉也。(又背低唱)

〔前腔〕⁽³⁾ 休炒。猛然想舊日恩情。終不然而着意新絃。把舊絃撇了。那日梅亭。兩兩向神天堪表。也只為妬雨迷雲。落梅誰掃。想當初柳媚共桃夭。可憐秋草。不覺淚洒鮫綃。樓西喧鬧。翻愁。難遣樓東懷抱。此事每神勞。^(外·小生·小淨·末云) 陛下當歡場中、為何戚然不樂？^(生) 正是酒闌人倦、不覺柔極悲生。^(外·小生·末·淨·小淨云) 臣等敬已告歸、願吾王安寢。^(生) 皇兄皇帝請了。^(外·末·小生·小淨·淨并衆樂工同唱) 暗想他、心裏。驚鴻那處愛猶饒。^(俱下)

〔貼〕陛下自屬意樓東、何用東支西吾、可遣高力士召致梅精、賤妾當避歸私第。^(生) 咳、朕無此心、妃子你又多心了。^(貼) 罷罷罷、金猊莫恃同心結、難必君心似妾心。^(下) 〔小旦·旦俱下〕^(生吊場) 高力士、你是我家老奴、可知朕的心事麼。^(丑) 但聽適纔楊娘娘說的就是。^(生) 你既知我心、可與朕去看梅妃動靜何如。^(丑) 奴婢謹領旨。^(丑下) 〔生〕高力士轉來。^(丑) 爺又叫奴婢轉來甚的。^(生) 此事須要謹密些。^(丑) 爺爺自家要謹密些、不須分付奴婢。^(丑下) 〔生嘆〕梅妃梅妃。

〔餘文〕傷情處。一水遙。總然對芳辰喧笑。還自想人在長門怨寂寥。

皎皎牽牛星

明明河漢女

盈盈一水間

脉脉不得語

註

(1)「小丑」、標註本は「丑」に作る。(2)標註本は「上」字を欠く。(3)標註本は「上唱」の二字を欠く。(4)標註本は「唱」字を欠く。(5)新刻本(底本)は「同云」の二字を欠く。標註本によつて補う。(6)「今宵」、標註本は「今朝」に作る。(7)「了」、標註本は「科」に作る。(8)標註本は「了」字を欠く。(9)「了」、標註本は「科」に作る。(10)唐・姚汝能『安祿山事迹』卷上に「(祿山)每對見、先拜太真。玄宗問之、奏曰、蕃人先母後父耳。」とある。また陳氏標註に「真萬年遺臭。向猶載之簡冊、今則譜之劇場。明皇千載有知、猶堪痛恨。」と。(11)「了」、標註本は「云」に作る。(12)「光祿寺」、新刻本(底

本)は「光禄司」に作る。標註本によって改める。(13)「百官」、標註本は「百百官」に衍する。(14)「了」、標註本は「云」に作る。(15)新刻本(底本)は「科」字を欠く。標註本によって補う。(16)「候」、新刻本(底本)は「侯」に誤る。標註本によって補う。(17)標註本は「唱」字を欠く。(18)「樹」、標註本は「樹」に作る。次の「瓊臺」との対句を考えれば、「玉樹」の方がより良い様に思われる。(19)標註本は「唱」字を欠く。(20)「合唱」、標註本は「唱」字を欠く。明・胡文煥「群音類選」巻十四では「合前」に作る。(21)「瓊瑤」、陳氏標註に「詩、投我以木桃、報之以瓊瑤」と。『詩經』衛風、木瓜の語。(22)「合唱」、標註本は「唱」字を欠く。『群音類選』本は「合前」に作る。(23)標註本は「唱」字を欠く。(24)「三郎」、陳氏標註に「三郎、明皇(小?)字」と。(25)「蝦鬚」、陳氏標註に「蝦鬚、簾」と。元・薩都拉「雁門集」巻十三「寒夜即事次韻呈許榮達」詩に「翠簾寒重捲蝦鬚」とある。(26)「水桃」、陳氏標註に「水桃已見」と。第十七齣「洗兒賜錢」、註(7)を参照。(27)「合唱」、標註本は「唱」字を欠く。『群音類選』本は「合前」に作る。(28)「大白」、陳氏標註に「大白、罰酒器」と。漢・劉向「說苑」善說に「魏文侯與大夫飲酒、使公乘不仁爲觴政曰、飲不嘯者、浮以大白」と。(29)「了」、標註本は「科」に作る。(30)「十分」、標註本は「十五」に誤る。(31)「看争」、標註本は「争看」に作る。(32)「玉山自倒」、陳氏標註に「李太白詩、玉山自倒非」と。李白「襄陽歌」に「玉山自倒非人推」とある。(33)「仙女」、標註本は「仙子」に作る。(34)「藍橋」、陳氏標註に「藍橋、裴航事」と。『太平広記』巻五十、「裴航」に、裴航が藍橋で雲英に遭った故事を載せる。(35)新刻本(底本)は「云」字を欠く。標註本によって補う。(36)陳氏標註に「屬綢繆事。忽有岑寂之感。絕妙□亦伏後案」と。「後案を伏す」とは、後に玄宗が梅妃を忘れかねて密会する事をいう。第十九齣「梅妃遺賦」、第二十一齣「翠閣好會」参照。(37)「外・小生・小淨・末云」、標註本は「外・末・小生・小争云」に作る。新刻本(底本)は「云」字を欠くが、「多」と。(39)「外・小生・末・小淨・小争云」、標註本は「外・末・小生・小争云」に作る。新刻本(底本)は「云」字を欠くが、標註本によって補う。(40)「王」、標註本は「皇」に作る。(41)「衆」、標註本は「一」に誤る。(42)「致」、標註本は「至」に誤る。(43)「小旦・旦」、標註本は「旦・小旦」に作る。(44)「丑」、標註本は「小丑」に作る。(45)「楊娘娘」、新刻本(底本)は「楊」字を欠く。標註本によって補う。(46)「丑」、標註本は「小丑」に作る。(47)新刻本(底本)は「謹」字を欠く。標註本によって補う。(48)標註本は「丑」字を欠く。(49)「丑」、標註本は「小丑」に作る。(50)「須要」、新刻本(底本)は「須」字を欠く。標註本によって補う。(51)「謹密」、標註本は「緊密」に作る。(52)「丑」、標註本は「小丑」に作る。(53)「謹密」、標註本は「緊密」に作る。(54)標註本は「丑(小丑)」字を欠く。(55)「了」、標註本は「科」に作る。(56)「古詩十九首」其十詩に「迢迢牽牛星、皎皎河漢女、盈盈一水間、脈脈不得語」と(『文選』巻二十九)。

第二十二齣 祿山辭朝

〔掛真兒〕（淨扮安祿山金貂裘龍袍上，唱）列土分茅膺帝命。當今萬里長城。華夏貔貅。羽林豹豹。指日風雲須定。

「赫赫威神掩日，昂昂志氣冲天。不能流芳百世，亦常遺臭萬年」。自家安祿山、平胡定虜，屢立奇勲，尚主入宮，頻蒙異寵。

近日天子有命，封俺為東平郡王，加俺為左僕射。又起第親仁坊，但究壯麗，不限財力，朕御物件，過於禁中。在臣子恩榮已極，奈帝皇位號更高，耿然有懷，貪慕無已。只是一件，朝廷有二三大臣，甚是妬俺，頗陳祿山反狀，聖上此番召祿山，想也有些疑俺了。俺今聞命即至，可破天子之疑，兼恃貴妃在傍，解分諸臣之謗。此間已是宮前，不免大胆竟入，未知吉凶

若何。（生扮唐明皇，貼扮楊貴妃，丑·外扮二黃門，旦·小旦扮二宮女隨上）

〔神伏兒〕（生唱）朝廷清晏。邊郊底奠。唐虞何忝。（貼唱）君福綿綿遠。綠鬢朱顏占斷。（衆唱）惟勒鼎頌千年。惟勒鼎頌千年。

（淨俯伏了）臣東平郡王安祿山、蒙召叩見，願吾皇萬歲萬萬歲，母后千歲千千歲。（生）我兒，汝自河東至長安，道路頗遙，

入朝何速。（淨）君命召，不俟駕而行，臣星夜驅馳，幸免遲慢之罪。（生對貼云）近日太子與楊國忠、奏祿山必反，試召之必不來。朕今召祿山，聞命即至，何可盡信。（貼俯伏了）妾聞有明君，然後有忠臣，祿山兒雖忠，自非陛下明見萬里，亦不得其用。

（生）妃子起來。（貼）萬歲。（淨）臣向時以愚蠢不拜太子，太子至今恨臣。陛下寵臣太隆，又起宰臣之忌，所以謗言朋興。伏望陛下憐而察之。（生）三鎮國家重地，卿領其任，不宜久留京都。明日就行，朕今日與妃子為汝祖錢，便了。（淨）臣謹奉

詔。（生）諸侍們，可整酒來。（丑·外通酒盃上生）（生通酒淨）（淨跪受了）

〔駐雲飛〕（生唱）絳闕高筵。委汝兵權豈偶然。九塞多艱險。五位虛宵旰。嗟。盈案謗書懸。忍誣忠寒。我兒過來。（淨）臣有。（作俯伏了）（生）朕鮮飛龍御袍賜汝，汝宜服之，以壯四夷之觀，肅諸軍之望。（作解衣賜淨了，生唱）速換朝簪。佩却南宮劍。

一領黃袍掛體間。萬里蒼生羨路間。（貼送酒淨，淨跪受了）（貼唱）

〔前腔〕鉦鼓喧闐。冉冉東風促去鞭。我珠翠何心戀。你誠亦應須檢。喏。板蕩識忠賢。要知天眷。(貼)我兒過來。(淨)臣有。(作俯伏了)(貼)妾聞古之人臣、有功者則君賜環、有罪者則君賜玦。汝今有功無罪、妾以白玉環賜汝、汝宜佩之以耀平虜之功、彰得君之譽。(作脫玉環賜淨了、貼唱)玉色清英。德比君無玷。好慰單于山斗瞻。要使威靈邊塞傳。

(淨跪了)臣安祿山、蒙父皇母后恩賜非常、臣之田園服御、皆陛下賜也。愧無以報、惟此身受之父母、今日決願剖心裂肝、把心獻上父皇、把肝獻上母后。(貼作哭了)你這痴兒、心肝可是好剖開的、却不會死了你。(淨)臣便死也甘心。(生)汝自盟于心足矣、何必剖肝。(淨)既如此、微臣告假御醜、祝延聖壽。(將酒對天祝拜了、唱)

〔駐馬聽〕暗祝蒼天。萬歲千秋瞻聖年。(轉向生·貼跪進酒了、淨唱)今是恒升日月。鞏固山陵。祿壽方綿。東流禹貢寰中歛。南薰舜樂棣前燕。願父皇母后、保愛聖躬。臣不知何時復承歡膝下也。(作哭了)臣此去呵。遙遠長安。忽覩雲間數鴈。脉脉丹心廻轉。

(生)今日是黃道吉辰、祿山暫整行色。朕與妃子百官、俱送至長安城門外、諸侍們、移輦來。(淨)萬歲。(內鳴金鼓、小末·小外·小丑·小淨扮四番將、各執刀斧上)(小末)大將旌旗疏鞏道。(小外)天宮簫鼓振征鞍。(小丑)雲峰四起近宸幄。(小淨)水樹千重映玉顏。(旁侍·生·貼作上轎行了)(淨作上馬行了)(末·外旦·小旦隨行)(合唱)

〔前腔〕白帝城邊。殊勝昆明整漢年。盡道明皇選將。慈后憐材。猛士揮鞭。蛟龍出沒滄溟撼。鯨鯢竄伏風雲掩。(四將近前俯伏了)衆將官迎駕。(生)好一等魁梧奇偉的猛將軍。(淨)此番將也、力能扼虎、射能穿楊、匈奴見之、皆失魂魄。今漢將柔怯、不足與用武。臣請以番將三十二人代漢將、未知聖意若何。(生)依卿所奏。(淨同四將同呼萬歲、起了)(合唱)遙遠長安。爭看哥舒北斗。欲上臨洮不敢。

(末·外跪了)此間長安城門、請爺爺娘娘回駕。(淨俯伏了)臣荷蒙聖恩、即此遠別。願父皇萬歲、母后千歲。(生·貼)祿山兒同之。

(生)烈烈征夫邁

(貼) 茫茫塞草枯
(衆) 隴頭那用閉

萬里不防胡

註

(1) 新刻本(底本)は「列」字不詳。標註本によって補う。(2)「分茅、陳氏標註に「分茅、天子之社、東方青土、南方赤土、西方白土、北方黒土、冒以黃土。凡有封一(土?)、隨其方向取土與之、歸以為社。包以白茅、故曰分茅。」と。『獨斷』に「天子大社、以五色土爲壇。」東方受青、南方受赤、他如其方色、苴以白茅授之。各以其所封之方色、歸國以立社、故謂之受茅土。」とある。(3)「萬里長城」、陳氏標註に「萬里長城、檀濟道臨刑曰、壞汝萬里長城耶」と。『南史』卷十五、檀道濟傳參照。(4)「赫赫威神掩日、昂昂志氣冲天」、標註本は十二字のうち、「神掩：志氣」の四字相当部分を欠く。(5)「常遺臭萬年」、標註本は「能遺臭當年」に作る。(6)『資治通鑑』卷二二六、天寶九載條に「五月、乙卯、賜安祿山爵東平郡王。」とある。(7)標註本は「號」字を欠く。(8)陳氏標註に「此祿山最狡之處」と。(9)「忝」、標註本は「太」に誤る。(10)標註本は「唱」字を欠く。(11)標註本は「唱」字を欠く。(12)「了」、標註本は「云」に作る。(13)陳氏標註に「最狡最狡」と。(14)新刻本(底本)は「云」字を欠く。標註本によって補う。(15)陳氏標註に「可恥可恥」と。(16)「了」、標註本は「科」に作る。(17)標註本は「兒」字を欠く。(18)新刻本(底本)は「便了」二字を欠く。標註本によって補う。(19)「了」、標註本は「科」に作る。(20)標註本は「生」字を欠く。(21)標註本は「你」字を欠く。(22)「板蕩」、陳氏標註に「板蕩二詩篇。又太宗詩、疾風知勁草、板蕩識忠臣」と。『詩經』大雅に「板」と「蕩」の二詩篇がある。又『全唐詩』卷一、太宗「賜蕭瑀」詩に「疾風知勁草、板蕩識忠臣」とある。(23)標註本は「貼」字を欠く。(24)「了」、標註本は「科」に作る。(25)「賜環」「賜瑛」、陳氏標註に「賜環・賜瑛、出札記」と。『儀禮』喪服疏に「得環則還、得瑛則去」の語がある。また『荀子』「大略」に「絶人以瑛、反絶以環」とあって、その注に「古者臣有罪、待放於境、三年不敢去、與之環則還、與之瑛則絶。」とある。(26)標註本は「貼」字を欠く。(27)「單子」、陳氏標註に「單子、匈奴之號、猶華言天子也」と。(28)「山斗」、陳氏標註に「山斗、韓昌黎□□、學者仰之如太山北斗」と。『新唐書』卷一七六、韓愈傳の贊語參照。(29)「了」、標註本は「云」に作る。(30)「了」、標註本は「云」に作る。(31)標註本は「好」字を欠く。(32)新刻本(底本)は「會」字を欠く。標註本によって補う。(33)「了」、標註本は「科」に作る。(34)標註本は「浄」字を欠く。(35)「流」、標註本は「方」に作る。(36)「了」、標註本は「科」に作る。(37)標註本は「城」字を欠

く。(38) 標註本は「貼」字を空格とする。(39) 「了」、標註本は「科」に作る。(40) 「了」、標註本は「科」に作る。(41) 「白帝城」、陳氏標註に「白帝城、在蜀」と。(42) 「昆明」、陳氏標註に「昆明、池名。漢武時、鑿以習水戰也。」と。『漢書』卷六、武帝紀、如淳注に「作昆明池象之、以習水戰。」とある。(43) 「憐」、標註本は「遜」に作る。(44) 「了」、標註本は「云」に作る。(45) 『資治通鑑』卷二七、天寶十四載條に「二月、辛亥、安祿山使副將何千年入奏、請以蕃將三十二人代漢將」と。(46) 「了」、標註本は「科」に作る。(47) 「遙」、標註本は「送」に作る。(48) 「哥舒」、陳氏標註に「哥舒翰、夷人名」と。『舊唐書』卷一〇四、『新唐書』卷一三五本伝参照。(49) 「臨洮」、陳氏標註に「臨洮、池名」と。(50) 「了」、標註本は「云」に作る。(51) 「了」、標註本は「云」に作る。

第三十勳 諸臣追駕

(末扮杜甫忙走上) 「渭水東流去、何時返帝州。憑添兩行淚、寄向故園流。」自家杜甫是也。聞得乙未黎明、吾皇聽信奸賊楊国忠、獨與太子妃主宦官數百人、出延秋門奔蜀。群臣莫知、不免追趕上去。道尤未了、想又有一位追駕的官員來了。(小生扮李白忙走上) 「從此登高去、無人送酒來。遙憐故園菊、應傍戰場開。」呀、原來杜子美亦到此間也。(末) 我道何人、竟是李太白。(小生) 子美請了。(末) 太白請了。吾皇幸蜀之事、迺古今大奇。(小生) 便是、吾輩未能濺血虜廷、亦當周旋君側。請趕上行幾步。(末·小生同唱)

〔薄媚濛〕亂叢叢。腥膻逆胡。天子幸西蜀。誰經亂離。誰悲路岐。誰有一人除醜虜。定王都。生長驩娛。生長驩娛。遭坎珂。涉奔波。萬乘鸞輿。奴何輕去。

〔前腔〕念君憂臣辱。念君憂臣辱。怎禁得珠淚偷相墮。軍馬巷呼。軍馬巷呼。兵和將。誰相護。路崎嶇。陵寢丘墟。誰來守。誰來願。棄山河。劫運天殃。安可奈何。

(內鳴鑼鼓了)(末) 聞得賊將史思明、分遊兵在此、搜索追駕的官員。那林木間風聲想是也。(小生) 那怎生好? (內扮衆軍校呼) 趕上、將末·小生拿綁了) 你這兩個漢子、敢是安祿山差來的好細。拿去見主帥。(末·小生) 列位還是賊兵、還是官兵? (衆軍)

我們是河北元帥兵部尚書顏爺手下的軍校。(末・小生) 既如此、你們拿我兩人、竟去見顏爺就是了。(小外扮顏真卿戎粧上)「劍戟千軍擁、筓篸四野愁、何時報明主、恢復舊神州。」(衆軍跪了)稟爺、拿得兩個奸細在此。(末・小生) 明公首唱大義、河北諸郡、賴公以爲長城。我李杜二生、真如撥雲見日。(小外) 且住、放他起來。(衆放起了) (小外) 呀、原來是李供奉・杜拾遺二位大人。二大人請轉、容顏真卿一拜。(各拜了) (小外) 京師一別、不覺五年。(末・小生) 邂逅匆匆、慰望殊甚。(小外) 二位大人此行、得非爲追駕乎? (末・小生) 正爲追駕、不自意得遇明公。(小外) 下官軍旅之中、不得留款、敬奉黃金十兩、以佐前途酒資。吾皇羈旅劍南、朝士星散、二位大人急去、好周旋吾皇也。(末・小生) 兩生荷蒙厚贈、仰見雅懷、所望明公糾朋諸郡、急斬賊奴、恢復神州、以報天子。此桓文之功、明公好自愛也。兩生就此拜別。(作拜了) (末・小生唱)

〔前腔〕望明公恢復。望明公恢復。此行去。側耳聽消息。(小外與末・小生同唱) 峽氣蕭疎。歸何地。關山月。共分悲。幾處民啼。幾處夷歌。終白骨。終黃土。野雲孤。(作共抱哭了) 此別新亭。揮淚似河。

(小外) 燕趙悲歌士

(小生) 相逢鉦鼓間

(末) 寸心言不盡

(衆) 落日慘江山

註

(1) 「一位追駕」、標註本は「一駕追薦」に作る。(2) 岑參「行軍九日思長安故園」詩。(3) 「萬乘」、陳氏標註に「萬乘、天子之國、□□萬乘也。」と。(4) 「憂臣辱」、陳氏標註に「□□主憂臣辱三□臣死」と。(5) 「劫運天殃、安可奈何」、陳氏標註に「□□(劫運?) 天殃、無可奈何。以離歸之于素、得委順之詞、怨而不怒、忠厚之体也。」と(意味不詳)。(6) 「了」、標註本は「科」に作る。(7) 標註本は「呼」字を欠く。(8) 「了」、標註本は「云」に作る。(9) 「了」、標註本は「科」に作る。(10) 標註本は「了」字を欠く。

第三十一齣 蜀路思妃

〔霜天曉角〕（生扮唐明皇，小丑扮高力士，衆扮軍校隨上）（生唱）長安賊開。劍外兵戈擁。最苦玉人塵土。新愁舊恨無窮。

〔漁陽鼙鼓烟塵動，驚破霓裳共羽衣。西出都門軍士憤，馬前宛宛轉殺蛾眉〕。高力士，且問到劍門還有多少路程。（小丑俯伏了）

覆爺，尚遠千里。（生嘆了）此去劍門，烏啼花落，水綠山青，無非助朕悲悼妃子之情也。（小丑）望爺寬懷，釐行甚遲，馬行甚速。倘有賊兵追趕，望爺上馬。（生）牽馬過來。（小丑近前，俱作上馬了）（生唱）

〔榴花泣〕蜀山萬點。多是白雲蒙。兵和將。一齊空。尋常金縷舞裙紅。怎禁得羈旅飄蓬。猿啼鳥狖。一聲聲。瘦馬驚殘夢。夢迷離。宛轉華青。醒來時。南北西東。

〔前腔〕千尋劍閣。望不盡蚕叢。人洵洵。恨冲冲。苔深泥。滑路朦朧。又禁得露漬林楓。山迴水湧。行不上翠蓋鸞輿重。想今日。萬種傷心。悔當初。七夕相逢。

（內作發喊鳴鼓了）（生）此處甚麼地方？（衆）此處是扶風郡了。（生·衆合唱）

〔泣顏回〕斷烟殘霧中。又聽得殺氣橫空。間關千里。今宵愁殺扶風。（生）這道傍甚麼樹？（衆應了）此是石楠。（生）看他團團可愛，我反不如他。看石楠道中。樹團團。人已分鸞鳳。只指望。地久天長。誰知做。日暮途窮。

〔前腔〕淋漓細雨濛。聽鈴聲。滿野叮咚。把斷腸心事。度入箜篌三弄。縱按商叶宮。只悲淒。恐不比梨園奉。掛愁腸。十載芳筵。供遠目。千里孤鴻。

〔尾聲〕今宵誰與淒涼共。難捱過更長漏永。除非是一曲霓裳。送入梨花夢。

（生）春風桃李花開夜

秋雨梧桐葉落時

（衆）天長地久有時盡

此恨綿綿無絕期

註

(1) 白居易「長恨歌」に「漁陽鞞鼓動地來、驚破霓裳羽衣曲」「西出都門百餘里」「宛轉蛾眉馬前死」などとある。(2) 「了」、標註本は「云」に作る。(3) 「了」、標註本は「云」に作る。(4) 「追趕」、新刻本(底本)は「趕追」に作る。標註本によつて改める。(5) 「俱作上馬了」、標註本は「俱上馬科」に作る。(6) 「蚕叢」、陳氏標註に「李太白詩、蚕叢及魚鳥、開國尚茫然。蚕叢古蜀天子」と。李白「蜀道難」詩に「蠶叢及魚鳥、開國何茫然」とある。(7) 「了」、標註本は「科」に作る。(8) 「扶風」、陳氏標註に「□□卻從楊太真外傳譜入」と。「楊太真外傳」卷下に「上發馬鬼、行至扶風道。道傍有花寺、畔見石楠樹團圓。愛玩之、因呼為端正樹、蓋有所思也。又至斜谷口、屬霖雨涉旬、於棧道雨中聞鈴聲、隔山相應。上既悼念貴妃、因採其聲爲『雨霖鈴』曲、以寄恨焉。」とある。(9) 標註本は「了」字を欠く。(10) 「聽鈴聲」、陳氏標註に「雨霖鈴已見。此政即其事譜曲」と。(11) 「目」、標註本は「日」に作る。(12) 「梨花夢」、陳氏標註に「梅詩、不語梨花同夢」と。宋・張邦基『墨莊漫錄』卷六に「東坡作梅花詞云、高情已逐曉雲空、不與梨花同夢」とある。(13) 以下四句は全て白居易「長恨歌」に拠る。

第三十三齣 大駕還宮

(生扮唐明皇上) 地僻先搖落、空亭長綠莎。山川連漢道、市井雜夷歌。(小丑扮高力士) 旅篋衣裳少、寒程風雨多。徂東神武振、吾願已蹉跎。(生) 高力士。(小丑俯伏了) 奴婢有。(生) 數日前靈武使臣來、說李郭屢殺賊將、郡縣悉反胡奉唐。吾兒應天順人、復何憂哉。(小丑) 此宗社生靈之福、爺爺還宮有日矣。(小外扮房瑁、小淨扮第五琦、衆扮兩軍校隨上) (小外) 黃雲斷春色、画角起邊愁。(小淨) 聖主經年別、秦中續故遊。(同向生俯伏了) (小外) 賊寇盡滅、少帝已入長安、特詔臣房瑁、臣第五琦、迎上皇還宮。(生) 呵、已入長安了。可喜可喜、快整輦來趕行。(衆近前、生作上輦科) (衆作上馬了共行)

〔憶多嬌〕(生唱) 車出關。馬出山。隨意青楓白露寒。莫說當年離別難。(合唱) 雪没天南。雪没天南。使我征途倍艱。

〔前腔〕（小外·小淨唱）君已旋。城已完。白骨沙場誰與棺。闔裏空持破鏡看。（合唱）雪没天南。雪没天南。雪没天南。揆是還朝倍驩。（同下）（小旦扮唐太子，末戎粧扮郭子儀，外戎粧扮李光弼，衆扮中官軍校隨走上唱）

〔前腔〕雲黯然。兩岸猿。啼向巴江上帝前。新舊悲歡偷淚彈。（合唱）雪没天南。雪没天南。雪没天南。遠道離駒未旋。（同下）（生·小丑·小外·小淨與衆上，唱）

〔前腔〕山路艱。江路連。地轉西流作渭川。玉壘天迴別劍南。（小旦·末·外與衆走上，唱）恢復長安。恢復長安。共報君王凱旋。（生作見小旦共悲）（小旦作拜了，唱）

〔憶鶯兒〕昔播遷。蜀道懸。暮暮朝朝念膝前。猶恐相逢是夢邊。（生）我兒，你重造福幘。殊蓋我愆。人當亂。後齊飲忤。（末·外作俯伏了）臣郭子儀，臣李光弼，拜賀吾皇，願吾皇萬歲。（生）天生二卿，迺為社稷，非為朕也。（末·外）一人有慶，兆民賴之，臣則何功。（作拜唱）賀朝端。中興有主。夷夏祝堯天。

（生）朕賴諸將相戮力，大亂既平。李泌封為鄴侯，行宰相事。郭子儀進爵汾陽王。李光弼進爵潁陽王，餘將論功有差。（衆俯伏了）萬歲萬萬歲。（小旦）李先生高雅，不可以召至。待孩兒同李郭二將軍過訪之。（生）這最是。（小旦）漢將承恩西破戎。（末·外）捷書先奏未央宮。（生）天子預開麟閣待。（衆）鄴侯不減子房功。（同下）（小生扮李泌上，走唱）

〔前腔〕客志堅。不受宣。將相從來鋒煎。名利一朝須謝捐。（小旦·末·外帶衆軍校持紗貂裘龍袍吹鼓樂上，走唱）笙鼓鬧喧。袍袞耀鮮。喚回高士烟霞念。（小生作見小旦，小旦與小生交拜了，小旦唱）謝英賢。神州無恙。更伏你周旋。

（小生）那軍校所持者何物？（小旦）此金貂紫袍，上皇所贈，封先生為鄴侯，賓客相待，非敢相臣，望先生笑納。（小生）君王差矣。（小生唱）

〔鬪黑麻〕我是個天庭瑤池醉客。也只為些兒塵心下謫。休相認。管簫列。（小旦）原來李先生是個謫仙。（小旦唱）你一束生裘。吟風弄月。（小旦·小生相對拜了，合唱）深深拜別。江湖與宮闕。兩下參商。愁心韞結。

〔前腔〕（小旦唱）只數載相隨。嘉謀獻納。忍下得一朝。淒然永撤。還須懇。贊功業。（小生唱）奈萬點蒼嵐。孤鴻遠沒。

(末・外) 小將郭子儀・李光弼拜謝軍師。(小生) 我也要拜別二公。(作拜了) 唱 歸山勇決。歸朝自英傑。兩下參商。啼鵲淚血。
(末・外) 光武中興一代新。(小旦) 嚴光原是漢家賓。(小生向小旦揖了) 與我多拜謝上皇。(作咲了) 仰空大咲騎鶴去、李泌豈肯
為人臣。(內作鶴叫三声、小生下)(衆) 稟萬歲爺、半空中鶴淚三声、李軍師騰空飛去。(小旦) 有這等奇事。快回宮覆上皇。(衆應
了、同唱)

〔哭相思〕莫道仙人多幻說。高才震主飛雲闕。想這是皇天降也。來成就一時桓桓烈。只有含恩誦德。

(この一齣は總括詩を欠く。)

註

(1) 「兩」、標註本は「二」に作る。(2) 「了」、標註本は「科」に作る。(3) 新刻本(底本)は「科」字を欠く。標註本によつて補う。(4) 「衆作上馬了共行」、標註本は「衆作上馬共行科」に作る。(5) 標註本は「唱」字を欠く。(6) 陳氏標註に「□下、多從李□詩譜入」と。(7) 標註本は「唱」字を欠く。(8) 「蟬」、新刻本(底本)は「嗶」に作る。標註本によつて改める。陳氏標註に「□慘悲念、猶不忍言」と。(9) 標註本は「唱」字を欠く。(10) 「上」字、標註本は「唐太子」の下に附く。(11) 標註本は「唱」字を欠く。(12) 「了」、標註本は「科」に作る。(13) 「幅幘」、陳氏標註に「幅幘已見」と。第二十一齣「翠閣好會」の陳氏標註参照。(14) 「了」、標註本は「云」に作る。(15) 「了」、標註本は「云」に作る。(16) 「鄭侯」(?)、標註本に「□從鄭侯」(?)と。(17) 「了」、標註本は「科」に作る。(18) 標註本は「小旦」二字を欠く。(19) 標註本は「小生」二字を欠く。(20) 「管簫」、陳氏標註に「□管仲蕭何」と。『史記』卷六十二管仲列伝、同卷五十三蕭相國世家を参照。(21) 標註本は「小旦」二字を欠く。(22) 「一束生藺」、陳氏標註に「詩、生芻一束、其人如玉」と。『詩經』小雅、白駒の語。(23) 「了」、標註本は「科」に作る。(24) 「了」、標註本は「科」に作る。(25) 「了」、標註本は「科」に作る。(26) 「李泌」、陳氏標註に「按李泌外傳、多□奇異奇矣。然□騎鶴冲舉、傳奇無太誕乎□傳奇之体□□□」と。出扱不詳。(27) 標註本は「奇」字を欠く。

第三十五齣 馬嵬移葬

〔十二時〕（小旦扮念奴上，唱）骸骨情誰依。苦不盡君王情緒。景物淒涼。年華凋瘵。（小丑扮高力士上，唱）試問斷腸心事誰知。特奉旨把香肌埋瘞。

（小丑）念奴姐，我與你奉詔，一路行來。此間却是馬嵬山上西郭之野，你可認得否？（小旦）正是，我還省起來。在北坎下，你曾種小楓樹二株，日後為記。（小旦作行幾步，驚了）呀，樹在這裡。待我斫起二樹，掘將下去。（作斫掘。與小旦見戶，同跪作悲了）

（小丑）呀，娘娘紫纓無恙，肌膚已消，可不痛殺奴婢也。（小旦）娘娘，聖上思念你，食不甘味，寢不成寐，特差我二人來移葬，你可知否？（小丑）待我再叫他幾聲。娘娘，娘娘，你當初霓裳羽衣歌舞之時，何等聲音清亮，意態妖妍。如今

却應不響了。

〔山坡羊〕（小丑唱）苦辛酸。九重恩意。狠心腸。六軍忠義。害相思。霓裳羽衣。難捱過。蕭條時序。那時存亡呼吸兒。兀的管不得恩和義。兀的君王難救取。迷離。含冤憑訴誰。低回。何年月下歸。

〔前腔〕（小旦唱）鬧炒炒。舊驢猶記。苦哀哀。新愁誰寄。啾啾。當年舞衣。哭啼啼。今朝心事。那時魂歸頃刻兒。兀的不枉了千秋誓。兀的不枉了百年期。狐仙。綿綿無盡時。淒其。愁城誰解圍。

（小旦）高常侍，今日可將梓棺權置在此，明晨移葬罷。（小丑）正是。還有一件，我記得當初下葬之時，曾有錦香囊覆在胸前。念奴你可檢將回去，以獻上皇，置之懷袖，稍遣憂思。（小旦）這最說得有理。待我細檢。（作尋見香囊拿起了）呀

〔香柳娘〕（小旦唱）看香囊涕淚。看香囊涕淚。香芬猶在。如何紅玉將伊改。想當年錦帷。想當年錦帷。似月落大江西。似花蹂陌塵裏。我如今袖歸。我如今袖歸。那上皇見是香囊呵。（合唱）待不枉差來。怕轉增憔悴。

（小旦）漁陽鼙鼓風波惡

乖離休怨君心錯

(小丑) 猶記當年住鞦韆時
旌旗無光日色薄⁽¹⁵⁾

註

(1) 標註本は「小丑」二字を欠く。(2) 「了」、標註本は「云」に作る。(3) 「紫綳」、陳氏標註に「紫綳二句、見外傳」と。
『太真外傳』卷下に「妃之初薨、以紫綳裹之。及移葬、肌膚已消釋矣、胸前猶有錦香囊在焉。」とある。(4) 「來移葬、你可知否」、
標註本は「來移葬你、你可知否麼。」に作る。(5) 「小丑」、標註本は「小丑」二字を欠く。また「唱」字は「山坡羊」の前に付
く。(6) 陳氏標註に「以下多太真外伝、並長恨歌語。譜婉轉凄咽詞、垣(?) 中高手」とある。(7) 「月下歸」、陳氏標註に「杜
詩、環珮空歸月下魂」と。杜甫「詠懷古跡五首」其三詩に「環珮空歸月夜魂」とある。(8) 「愁城」、陳氏標註に「愁城、見庾信
愁賦」と。庾信「愁賦」に「攻許愁城終不破、蕩許愁門終不開」とある。『海錄碎事』卷九所引。(9) 標註本は「小丑」二字を
欠く。(10) 標註本は「了」字を欠く。(11) 標註本は「小旦」二字を欠き、「唱」香柳娘」呀、看香囊」の順に語が並ぶ。(12)
標註本は「我如今袖歸」のリフレインを欠く。(13) 白居易「長恨歌」に「漁陽聲鼓動地來」と。(14) 「住鞦」、陳氏標註に「住鞦、
車駕上口處。蓋天子之礼、出警入蹕、故行幸所在曰住鞦甚」と。(15) 白居易「長恨歌」に「旌旗無光日色薄」と。

第三十七齣

香囊起悼

〔風入松〕(小丑扮高力士上、唱) 紫簫吹散悶盈盈。璧月長虧。玉釵中折。前緣定。天憐取。重圓破鏡。(小旦扮念奴上、唱)
二十年來一夢。此身雖在還驚。

(小丑) 悠悠車馬遠秦川、一路空濛雨作烟。(小旦) 往日馬嵬人已朽、難將哀楚訴君前。此間是南京前、與你竟入。(生扮唐明皇
上) 椒房阿監青娥老、弟子梨園白髮鮮。(且扮梅妃上) 莫向梨雲吹玉笛、當時供奉已無先。(小丑・小旦共俯伏) 奴婢高力士、念
奴從馬嵬來。楊娘娘已移葬過了。(生) 其間光景如何? (小丑) 容奴婢奏上萬歲。(唱)

〔四犯黃鶯兒〕他旅塵又經秋。遶猿呼。和兔遊。奴婢到時、認當年記跡掘下、正是娘娘在內、只見他 蒙屍紫纒依然舊。

〔生〕他的屍體何如？（小丑唱）月貌已休。花色盡朽。當不過霓裳歌舞難回首。（小旦）娘娘玉顏雖改、香囊在胸。奴婢取起

一看、因帶他來。（唱）携上粧樓。夢思翠袖。轉物如人邂逅。（小旦將香囊送上生了）

〔琥珀貓兒墜〕（生唱）聽伊說罷。啼淚轉盈眸。薄命紅顏從古有。人間天上兩綢繆。（合唱）恹恹攏只是前生。限却風流。

〔旦作嘆了〕太真太真、汝雖妬我、我心甚想汝也。

〔前腔〕你嬌歌艷舞。與妾上秦樓。不道中途成怨耦。此情一筆盡消勾。（合唱）恹恹。待日後黃泉。訴說從頭。

〔生〕宜春院裏草萋萋

〔旦〕溝水東流復向西

〔衆〕月下無人楓自落

蜀江一路鳥空啼

註

- (1) 白居易「長恨歌」に「梨園弟子白髮新、椒房阿監青娥老」と。(2) 「共俯伏了」、標註本は「同俯伏科」に作る。(3) 新刻本(底本)は「唱」字を欠く。標註本によって補う。(4) 標註本は「唱」字を欠く。(5) 標註本は「唱」字を欠く。(6) 標註本は「小旦」二字を欠く。(7) 「了」、標註本は「科」に作る。(8) 標註本は「唱」字を欠く。(9) 標註本は「唱」字を欠く。(10) 「了」、標註本は「科」に作る。(11) 標註本は「唱」字を欠く。(12) 標註本は「旦」字を欠く。

(丑扮一道士上云) 仙女升天去，君王滿地悲，茫茫滄溟上，捧得好音來。一路飛騰，此間已是南宮外了。待我高叫一聲，那邊閑步的，是當初司理監高公公麼？(小丑扮高力士忙走上) 哈，是誰呼我？(作見丑了) 你那道士，為何到這個所在，好不胆大。(丑作笑了) 自家非別，迺是臨邛一個閑遊仙人。過海上仙山，謁見太真玉妃，有書信寄與大唐天子哩。(小丑作笑了) 你這一個痴道士，說天大的謊。貴妃娘娘已死，你何從得見他，左道欺君，不是當要，我大唐天子一怒，就要斫頭的。(丑) 有鈿合金釵，折開一半在此。(作與丑看了) (丑) 古怪古怪，這件東西，分明是娘娘初入宮之時，聖上差我持去送楊妃的。且與他傳進，再作區處。仙人，你住在這裏，我與你報上天子。(下) (丑) 我在此等候。(作嘆了) 那唐天子與那玉妃呵。(唱)

〔浪淘沙〕夕殿色凄然。一別經年。害，我好不費心也。(唱) 上窮碧落下黃泉。忽到天南雲闕處。擁出花冠。

(小丑忙走上) 咄，道士，上皇召你。你快隨我進見。(丑) 掩跡佯狂在世，廣行方便與人。(同下)

(この一齣は総結詩を欠く)

註

- (1) 陳氏標註に「二折即譜長恨歌意、而有差池。彼彼体、此此体夫」と。(2) 新刻本(底本)は「云」字を欠く。標註本によつて補う。(3) 「了」、標註本は「科」に作る。(4) 「了」、標註本は「科」に作る。(5) 新刻本(底本)は「哩」字を欠く。標註本によつて補う。(6) 「了」、標註本は「科」に作る。(7) 標註本は「你」字を欠く。(8) 「與丑」、標註本は「拿小丑」に作る。(9) 「了」、標註本は「科」に作る。(10) 「上」、標註本は「上云」に作る。